

進路だより

2014. 7. 18



いよいよ終業式です。この1学期をどのように過ごしましたか? 「きせきノート」をめくって、これまでの生活を振り返ってみましょう。そして、この夏休みをどのように過ごすか、目標を決めて計画的な学習に取り組んで下さい。「夏を制する者は受験を制する」などという言葉をよく聞きます。日頃は、授業の予復習、小テスト、課題・・・と、目の前の勉強に追われている人も多いと思いますが、この夏休みは自分の苦手分野を克服したり、自分の「勝負科目」を強化したりと、それぞれの目標に見合った学習に腰を据えて取り組んでほしいと思っています。まずは、7月進研模試のやり直しをして、自分の弱点を発見しましょう。

さて、3年生にとっては勝負の夏ですが、1、2年生にとって夏休みは、勉強に限らず、部活動やボランティア活動、旅行やオープンキャンパスへの参加など自己の見聞を広げる絶好の機会です。映画や舞台芸術の鑑賞、博物館や美術館に行くのもよいでしょう。そして読書は、最も手軽に自己の見聞を広げる手段となります。作家の伊坂幸太郎さんは次のように述べています。

「最近気づいたのですが、読書はイベントにならない娯楽です。映画でもライブでも『一日の予定』となります。一方、読書は何もすることがないからやる、待ち合わせまで時間があるから読むという普段の生活の隙間に入るもの。しかも一人でやることです。一人のもので、構えない時にずっと入ってくる。それでいいし、そこがいい。不思議な娯楽ですね。」

私たちは読書を通して、時間や空間を越え、いろんな「体験」をすることができます。遠い国の、遠い昔の人の人生を追体験することだって可能なのです。千年の昔、菅原孝標の女は「源氏物語」を夢中で読み、物語を読むことの幸せに比べれば、「後の位も何にかはせむ」と言いました。あまりにも有名なこの一言によって「更級日記」は現代に至るまで読み継がれる作品となったといっても過言ではありません。それほど、この言葉は多くの人々の共感を得たのだと思います。今回の進路だよりでは、夏休みに読んでほしい本の紹介をします。本との出会いは、みなさんの人生を変えてくれるかもしれません。

科学者、言語学者、心理学者、医師、経済学者、歴史家、哲学者・・・それぞれの分野における一流の知識人が、あなたたちに語りかけてくれるはずです。

すべて良き書物を読むことは、
過去の最もすぐれた人々と会話をかわすようなものである。
(デカルト)

国語科(高1・高2年部)からの推薦本

	評論			小説		
	タイトル	作者	コメント	タイトル	作者	コメント
高1	『白』	原研哉	日本文化の繊細さ・簡潔さを生み出し、支える美意識の原点-白。	『きよしこ』	重松清	大切なことを言えなかったすべての人に捧げたい珠玉の少年小説。
	『木に学べ』	西岡常一	人と人のなすべきことを記した入魂のメッセージ。	『さぶ』	山本周五郎	二人の心温まる友情を描いて“人間の真実とは何か”を探る。
	『日本語練習帳』	大野晋	学生・社会人のために著者が60年の研究を傾けて語る日本語トレーニング。	『大地』	パールバック	挑戦させたい大作4巻。中国の大地を舞台に壮大なスケールの100年物語!
高2	『日本という価値』	佐伯敬思	7月進研評論の作者。経済学者で、論点が斬新!	『はなとゆめ』	沖方丁	『天地明察』のエンターティナー・沖方丁による、『大鏡』の道長と清少納言の華と夢。
	『暗黒物質とは何か』	鈴木洋一郎	宇宙の27%はダークマター。68%がダークエネルギー。	『長崎の鐘』	永井隆	皆が偉くなればなるほど、心にとどめてほしい原爆のこと。
	『アメリカのめっちゃスゴい女性たち』	三木清	55人の女性たちはすべて逆境を乗り越え道を開拓! 勇気をもたらえる。	『春の雪』	三島由紀夫	日本語ってこんなに美しかったんだ! と感じてほしい1冊。

進路指導部からの推薦本

	書名	著者	出版社
①	化学者たちの感動の瞬間	有機合成化学協会	化学同人
②	科学者の発表論理	山崎茂明	丸善出版
③	化学者を目指す君たちへ	米国科学アカデミー	化学同人
④	知識だけあるバカになるな!	仲正昌樹	大和書房
⑤	地域医療は今	地域医療振興協会	メディカルサイエンス社
⑥	学問の取扱書	仲正昌樹	作品社
⑦	地球環境の事件簿	石弘之	岩波科学ライブラリ
⑧	ダークレディと呼ばれて	ブレンダマドックス	化学同人
⑨	東大で文学を学ぶ	辻原登	朝日選書
⑩	豊かさの精神病理	大平健	岩波文庫
⑪	単純な脳、複雑な「私」	池谷裕二	講談社ブルーバックス
⑫	言葉とは何か	丸山圭三郎	筑摩書房
⑬	歴史とは何か	E・H・カー	岩波文庫
⑭	「待つ」ということ	鷲田清一	角川選書
⑮	丸山眞男セレクション	丸山眞男	平凡社ライブラリー
⑯	友だち地獄	土井隆義	筑摩書房
⑰	医療の限界	小松秀樹	新潮新書

平成27年度大学入学者選抜大学入試センター試験説明会より

主な変更点だけお伝えしておきます。

- 1 学習指導要領の改訂に対応した出題科目
- 2 新学習指導要領履修者と旧学習指導要領履修者
現高3（平成24年4月に入学した者）からは、「新学習指導要領履修者」と呼ばれます。
- 3 時間割（すでにお伝えしました）
- 4 数学の登録方法と試験実施方法
数学は、新学習指導要領の「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」と「旧数学Ⅰ」「旧数学Ⅰ・旧数学A」が合冊になっています。したがって出願時においては、数学の受験の有無だけを登録します。当日、間違った問題を解かないように注意が必要です。※今年度のみ
- 5 理科の登録方法と試験実施方法

グループ	新教育課程により出題する科目	科目選択方法
理科①	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」	A：理科①から2科目選択 B：理科②から1科目選択 C：理科①から2科目選択
理科②	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	及び 理科②から1科目選択 D：理科②から2科目選択

新課程履修者は上表のA～Dのどのパターンで受験するかを出願時に登録しなければなりません。自分の志望大学の募集要項で確認し、間違いのないように選択をして下さい。なお試験当日に科目選択方法を変更することはできません。

※次年度以降、高1・2の生徒も同様の選択をすることになると思われます。

- 6 リスニングのICプレーヤー
大学入試センターのホームページにある「ICプレーヤー操作ガイド」では、ICプレーヤーの操作を体験することができます。これまでの試験で実際に使用された問題音声も聞くことができます。高1・2のみなさんもどうぞ。

<http://www.dnc.ac.jp/center/listening.html>

- 出願期間 9月29日(月)～10月9日(木) (消印有効)
- 検定料払込み 9月1日(月)～10月9日(木)

※ 学校で取りまとめて出願します。受験案内も学校で用意します。ただし、検定料払込みは個人で行います。
センター試験出願説明会（高3生徒対象）は9月の第1週に実施します。

きせきノート 利用・活用状況アンケート結果より

4月から「きせきノート 携帯版」を使って、学習の記録とともに学習予定・計画も記入して、日々の学習活動に生かしていることと思います。職員室等では先生方が皆さんの学習状況やその他生活の様子について、コメントを書き添える様子が見られます。2、3年生にとっては、これまでのきせきノートとは随分と姿を変えたものとなりましたが、使い勝手など、どのように感じているのでしょうか。

そこで今回、その利用・活用状況についてのアンケートを行い、その結果を以下にまとめました。

	回答項目	1年	2年	3年	全体
記録の習慣	毎日	14.8%	26.8%	28.1%	22.9%
	2～3日	23.9%	42.9%	36.2%	34.2%
	1週間	32.6%	23.4%	23.1%	26.5%
	記入なし	28.8%	6.9%	12.7%	16.4%
予定・計画の習慣	毎日	19.3%	21.1%	21.3%	20.5%
	2～3日	13.6%	27.6%	20.8%	20.6%
	ときどき	44.3%	42.1%	48.9%	44.9%
計画実行力	記入なし	22.7%	9.2%	9.0%	13.9%
	十分	5.7%	9.2%	12.6%	9.0%
	おおむね	21.2%	32.2%	31.1%	28.0%
	いくらか	47.7%	41.4%	42.8%	44.0%
	できていない	25.4%	17.2%	13.5%	19.0%

質問した項目のうち、表にある3つ(記録の習慣／予定・計画の習慣／計画実行力)について、ここで考えて見たいと思います。

「記録」と「予定・計画」の習慣ですが、2、3年生では約9割で記録や予定・計画を記入しているのに対し、1年生は約2～3割が記入していないと回答しています。2、3年生はこれまでの記録の習慣から予定・計画の習慣へとうまくつながっていることがうかがえます。1年生は数字からは見劣りしますが、使い方に工夫する機会です。例えば、授業時にきせきノートを机の上に置き、課題の連絡や取り組む学習内容をその時間・場所でメモするなど、教材とともに使用するよう心掛けましょう。

「計画実行力」についてですが、この力をつけることが、「きせきノート」に取り組む目的のねらいです。全体の37%でこの力がついたと回答していますが、自己評価とはいえ、現段階でのこの数字は、きせきノートの目的・ねらいに近づいていると考えています。前回の「進路だより」で若干触れましたが、金曜日～木曜日サイクルのスケジュール管理を今後も取り組んで欲しいと思います。

来週から夏休みです。補習はありますが、授業日に比べて自由に計画を立てる時間が増えますが、この期間こそ、きせきノートを利用して、記録や予定・計画の習慣化を図り、計画実行力を身につけましょう。